



WSFジャパンQ&A

— 創立は八一年とのことですが、この十年余の間のスポーツ界における女性の状況は、どのように変わってきましたか。また、WSFジャパンの活動としては、どんな成果があがっていますか？

「この十年余の間の女性スポーツは、一言でいえば『様変わり』といえるでしょう。この少ない紙面でまとめるのはむずかしいのですが、あえて大ざっぱに整理してみると、次の三点があげられます。

①以前は女性にとって過酷といわれたスポーツに、次々と女性が挑戦するようになった。(米国WSFの働きかけやWSFジャパンの協力で、

WSFジャパンとは

WSFジャパン(女性スポーツ財団日本支部)は、米国のWSFをお手本とし、日本の女性スポーツの発展、振興を目指し、一九八一年十二月に旗揚げされた非営利の団体です。会員は選手、指導者をはじめ、一般のスポーツ愛好者、研究者、スポーツビジネスにかかわる企業関係者など、男女を問わずさまざまな分野にわたっています。ボランティア団体

オリンピックの正式種目にマラソンや柔道などが認められました)

②男性のみで構成されていたスポーツ団体に、女性が登用されるようになった。(私たちの働きかけにより、日本スポーツ史上初の女性の日本体育協会会長、JOC理事、オリンピック選手団役員などが生まれました)

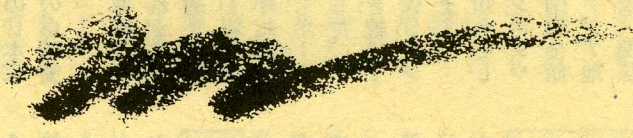
③「女性とスポーツ」の視点が広く受け入れられるようになった。(文部省や外務省などのスポーツコンベンションほか、陸上競技など各競技団体でもテーマとして取りあげられるようになった。(全てWSFジャパンのまいたタネが結実したものです)

なので、会員の方の会費が運営の財政基盤となっています。私たちの手で、女性スポーツの世界を考える仲間をどんどん増やしてゆきましょう。

入会金 年会費

- 賛助会員：5万円 10万円(二口)
- 団体会員：5千円 1万5千円
- 個人会員：3千円 8千円
- 学生会員：3千円 5千円

女性スポーツを応援しています。



スポーツビジネス総合シンクタンク

SPORTS 21®